

---

「新約のきよめ」

第20章 献身

# 絶対的降伏と信仰

これらはどちらかではなく、どちらも重要。

完全な信頼は全き降伏なしには存在しえない。しかし信頼できない神に意志を服させることもできない。

義認に対する悔い改めの位置が、全き聖化に対する献身の位置。

無条件降伏が、内住の罪からの救い主としてキリストに信頼するための不可欠な条件。

妨げとなっているものが取り除かれると、信仰は自然に生じてくる。

心の純潔は、全面的に、完全に、絶対的に自分を放棄し、神のみこころを受け入れ賛同することから離れては、与えられることも保たれることもできない。

# それは私たちの意志がなくなることではない

全くささげるとは、自分の意志がなくなると考える人がいるが、そうではない。

人間の性質の完全は、

その意志の消滅にあるのではなく、意志が神の意志と一致することにある。

私たちの意志が神の意志に従属しなければならない。

しかし自己愛と利己心の区別は必要。

自分自身の福祉を全く無視することではない。

神のみこころや他人の福祉に無頓着な自己愛が利己心。

この自己が十字架につけられなければならない。

# 支配者が一人であること

必要なのは立憲君主制ではなく、絶対君主制。  
その王がキリストであること。

ほかのどんなものをささげても、神は私たちのイサクを求められる。

私たちが霊的衝突と呼ぶ心の苦闘は、実際は霊的反逆。  
それが大きなことか些細なことかは問題ではない。  
どんなに些細なことであっても、大切なのは「すべてを無条件に」であること。

すべてを放棄するときに、すべてを見出す。

## その献身は私たちの知れる限りの献身で十分

すべてをささげると言っても、そのときに自分が知らないものがあるということはある。

しかし、意志が屈服されたときには、私たちが知っているすべてとともに、知らないことのすべても含まれている。

全生涯をもって応じる以下の献身でないならば、それで十全。  
それ以上のことは要求されていない。

私たちが何かを神にささげていないことが自覚の中になく、光を受けて光に従うことを完全に願っているなら、私たちの献身の件は解決したと考えてよい。